

事務事業評価シート(概要説明書)

事業名	フカキ夢・ひとづくり海外派遣研修事業	課室名	企画調整課	会計区分	一般会計
-----	--------------------	-----	-------	------	------

【事業の概要】

事業期間	開始年度	平成18年度	～	終了年度	
事業(補助)対象	<input checked="" type="checkbox"/> 市民 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他		(具体的な事業(補助)対象者) 専門的な活動を志す者又は、将来の活躍が期待できる者 (語学研修) 泉大津市在住の15歳～20歳の青年		
法令根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 市が自ら必要性を判断して実施 <input type="checkbox"/> 法令または大阪府条例・規則に実施義務規定有り		(具体的な法令、条例名等) 深喜人材育成基金条例(平成3年泉大津市条例第5号)		
事業の執行方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 市民との協働 <input type="checkbox"/> その他		(委託先等)		
(事業背景・目的) 深喜毛織(株)からの寄附金を基礎として、深喜人材育成基金条例に基づき、市の発展向上に寄与する人材の育成を図ることを目的に、奨学資金の交付事業の一環として実施。広い視野と国際感覚を持った国際化時代にふさわしい人材を育成するため海外派遣研修を実施している。					
(事業の内容) 泉大津市在住の15歳～20歳の青年をフィリピンセブ島の語学学校に8日間派遣。研修生は、研修校の寮に入りマンツーマン授業など充実した研修プログラムを通して語学の習得を図るとともに、まち歩きや観光を通してフィリピンの文化に触れるほか、他国から来ている研修生等との交流等を通して異文化理解を図る。 市は、奨学資金として、研修にかかる費用の2分の1の補助を行う。					

【事業費】

項目/年度		H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算見込額)	H26(予算額)	備考
事業費(千円)	事業費総額 ①	1,336	1,295	1,299	1,605	特定財源: 深喜人材育成基金、関西国際空港利用促進・PR事業支出金
	財源内訳(千円)					
	国庫支出金					
	府支出金					
	地方債					
	その他特定財源	1,336	1,295	1,299	1,605	
人件費	正職員の年間延べ人数	0.05	0.05	0.05	0.05	
	嘱託・臨時職員の年間延べ人数					
	正職員年間延べ人数×単価	279	279	279	279	
	嘱託・臨時職員年間延べ人数×単価	0	0	0	0	
	人件費合計 ②	279	279	279	279	
総事業費(千円) ①+②		1,615	1,574	1,578	1,884	
平成25年度事業費内訳(単位:千円)		費目				金額
		旅費(随員職員分:1名)				210
		負担金、補助金及び交付金				1,089
		※研修生の旅費の半額を市が負担。				

【事業の必要性】

事業の必要性	国際化が進む中、国際感覚を持った視野の広い人材を育成することが必要となってくる。
--------	--

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	23年度実績値	24年度実績値	25年度実績値	26年度目標値
研修参加申込者数	人	34	28	30	30
研修参加者数	人	14	13	11	12
満足度(アンケートで満足したと回答した割合)	%	100	100	100	100
(指標を設定できない理由)					
—					
(具体的な事業の成果)					
多くの研修生が、マンツーマン授業など充実した研修プログラムや他国から来ている研修生等との交流を通して、確実に語学力が向上し、異文化理解を図ることができたと、研修レポートやアンケートで回答している。さらに、帰国後、留学をしたり、語学力を活かした就職を希望するなど、後の人生に大きく影響を与えている。また、年々、参加希望者が増えてきており、当事業の認知度も確実に上がってきている。さらに、派遣研修生だけでなく、随員職員の語学力、コーディネート力の向上にもつながっている。					

【外部との連携・活用の可能性】

外部との連携・活用の可能性	連携・活用先、連携・活用部分、不可能な理由を具体的に
既に事業全体・一部で連携・活用済	
○ 今後事業の全部・一部で連携・活用可能	国際交流協会
連携・活用不可能	

【庁内事業との統合、連携の可能性】

類似事業の有無	○ 類似事業あり	→	類似事務事業名		
	○ 類似事業なし		統合・連携の可能性	可能性あり	可能性なし

【これまで実施した事務の見直し点】

これまでの改善点	<p>応募者の増加を図るため、以下のような改善点を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の変更(治安が良く、充実した研修内容で安価なフィリピンセブ島の語学研修校に) ・募集対象者に直接、周知できるよう、府立高校4学区全校へ募集ポスター等を送付。 ・市ホームページ、広報紙により、レポートやアンケート結果など、研修生の声を広く紹介。
----------	--

【課題(問題点)】

課題(問題点)	<p>一部市の国際交流ボランティアとして、活躍はいただいているが、研修者のその後の市への貢献をどう担保するかが課題。</p> <p>また、現在、ニーズや満足度が高いことから、語学研修を実施しているが、条例にある産業の振興や文化、スポーツなど他の分野における海外派遣事業が実施できていない。</p>
---------	--

【今後の方向性】

担当課の評価	B 見直し	<p>(左記評価の理由)</p> <p>上記の事業成果から国際化時代にふさわしい人材の育成を図ることができていると考える。また、事業満足度も100%であり、年々応募者数が増え、定員を大きく超えているなど、ニーズも非常に高いことから、当該基金事業は継続していく。</p> <p>ただし、研修生の研修後の市への貢献について検討する必要がある。</p>
改革・改善策等の具体的な内容	市への貢献については、習得した語学力を活かして、市の国際交流事業への参画や、国際交流協会事業への参画につなげていく。	

【参考】

比較参考値(類団など他自治体での状況)	他の自治体では、人材育成のための海外派遣研修は、ほとんどないが、本市と同様、基金事業として、実施している自治体はある。同様の青少年を対象とした語学研修事業は、各自治体にある国際交流協会が実施していることが多い。
---------------------	---